
◆ 目次 ◆

- 1 齊藤純在モンリオール日本国総領事挨拶
 - 2 1 月及び 2 月の休館日
 - 3 領事窓口時間等の変更について
 - 4 領事だより
 - (1) 日本へ入国・帰国される方々へ
 - (2) ノバスコシア州ハリファックス領事出張サービスのご案内
 - (3) 領事サービス向上・改善に向けたアンケートへの協力をお願い
 - (4) 改正旅券法令の施行に伴う旅券手続きの変更点概要（3 月 27 日から）
 - (5) 在留届の届出内容に変更はありませんか？
 - (6) モントリオール日本語補習校からのお知らせ
 - (7) ハリファックス日本語補習授業校からのお知らせ
 - (8) モントリオール日本語センターからのお知らせ
 - (9) モントリオールアカデミー会からのお知らせ
 - 5 広報・文化だより
 - 6 当館管轄 5 州の政治
 - 7 当館管轄 5 州の経済
- * * * * *

1 齊藤純在モンリオール日本国総領事挨拶

皆さまこんにちは、

一月も後半に入っているので新年の挨拶は控えますが、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

去年は生物多様性条約 COP15 の狂騒（というほどでもないですが・・・）のうちに幕を閉じましたが、私としては比較的穏やかな新年を迎えております。

自分にとってはまだ二回目の冬なのでなんとも言えないのですが、暖冬であると言われてきたものが、ここにきて平年並みに戻ってきたのかなと感じております。

雪や寒さの本格的到来を受けて、この冬はどうやって楽しもうかと思案中です。一昨年秋に着任した際に、領事団やケベコワたちから「モンリオールの冬は楽しんでな」んぼ」と言われて自分なりに楽しんだので、このところ新着任者たちには「暖かい家に引きこもらずに楽しむべきだ！」と先輩風を吹かせております。

先日ケベックシティに出張して参りました。州都への出張も、最初のうちは高速道路の車窓の風景などにワクワクしていた片道 3 時間の道のりですが、さすがに飽きてき

たこともあり今回初めて VIA Rail を使ってみました。定刻に発車して定刻に到着したのですが、ケベックシティに着いてみると何人かの方々から「遅れませんでしたか？」と聞かれ、ラッキーだったのかな・・・とも思いました。帰りも始発ということもあり当然定刻に発車しました。ヨーロッパ同様発車ベルもアナウンスもなくいつの間にか動きだし、車内放送のジングルもフランスの列車内で聞いていたのと同じものが流れて一瞬どこにいるのかわからなくなりましたが、アナウンスがケベックなまりのフランス語ですぐ我に返りました。今後もたまに列車旅を楽しもうと思っています。

列車といえば REM（モントリオールの郊外電車とでも言えばいいのでしょうか・・・）が試運転をしているのを初めて見かけました。シャンプラン橋や高速道路の脇に線路が着々と整備されている（おかげで車線規制で結構渋滞・・・）のは見てきましたが、実際に電車が走っているのを見るとちょっとした感慨を覚えました。というのも開業予定が何度も延び延びになり、延伸路線についてもいろいろ議論があるからです。着任して間もない頃に総領事館そばの工事現場を通りかかった際、運転手から「ここはずっと工事をしている、このまま齊藤総領事の任期中も続くのではないかと冗談半分に言われましたが、それがリアルにならないことを祈ります。

今年は日本が G7 の議長国です。岸田総理は先日その一環としてカナダも訪問され、自由で開かれたインド太平洋をはじめ様々な分野での日加間の協力を一層深化させるためトルドー連邦首相と議論されました。トルドー首相主催の経済関係者を招いた昼食会にはケベック州をはじめ当館管轄州の方々も招かれたようで、今後フォローアップしていきたいと考えています。

G7 サミットは岸田総理の地元でもある広島で開催されますが、広島市はモントリオール市と姉妹都市関係にあります。以前も書きましたが市内の植物園に日本庭園があり、そこには広島市から寄贈された平和の鐘があります。植物園は広大な敷地の中に中国庭園や先住民の庭園、昆虫館などもあって充実しており、皆さまぜひ訪問されることをお勧めします。積雪期は確か歩くスキーもできるはずです。

年の初めということで 2023 年に触れると、今年は日カナダ修好 95 周年です。少々中途半端なこともあり大規模な行事は予定されていないようですが、100 周年に向けて考えを巡らし始めてもいいかなと考えています。また、ケベック州政府が東京に事務所を開設してちょうど 50 年を迎えます。日本がモントリオールに総領事館を開設したのは 1960 年なのでわれわれが「先輩」ではありますが、50 周年を温かくお祝いします。先日お会いした Biron 州対外関係・仏語圏大臣は、この機会に訪日したいとの希望を述べておられました。訪問が実現し、日ケベック関係が一層充実したものとなるよう尽力して参る所存です。大西洋州からも閣僚の訪日が予定されており、ポストコロナ期における日本と当館管轄 5 州との関係再活性化・強化の息吹を感じています。

年末にかけてケベック州を席卷していた各種疾病も小康状態のようですが、皆さま引き続き体調管理にご留意ください。

2 1月及び2月の休館日

- 2月23日（木） 天皇誕生日
- 毎週土日

3 領事窓口時間等の変更について

2020年4月以来、新型コロナウイルス感染症の感染拡大とケベック州の各種規制を受け、領事窓口受付時間を短縮してきましたが、2022年3月28日から、通常化しています。

詳しくは以下をご覧ください。

（1）受付時間

【査証を除く、申請の受付】

9時～12時、13時30分～16時30分

【査証を除く、交付・受領】

9時～12時30分、13時30分～17時

【査証の申請受付と交付・受領】

9時～11時30分、13時30分～16時

（2）標準処理日数

●旅券

申請日の翌開館日を1日目として、5開館日目に交付します。

（例：月曜日申請→翌週月曜日交付）

●証明

申請日の翌開館日を1日目として、3開館日目に交付します。

（例：月曜日申請→木曜日交付）

●査証

申請日の翌開館日を1日目として、原則として、5開館日目に交付します。

（例：月曜日申請→翌週月曜日交付）

(3) 予約制の一部導入

当地の規制緩和及び日本における水際措置緩和に伴い、来館者が増加しております。来館者及び当館館員の感染リスクが高まることを可能な限り防ぐため、領事待合室に来館者が長時間滞在されることのないようにいたします。

このため、2022年3月15日から、当面の間、一部の取り扱いについて予約制を導入しています。あらかじめ当館領事班にご連絡いただき、ご予約ください。

(i) 対象となる取り扱い

- ・在留証明の申請
- ・署名証明の申請
- ・警察証明の申請
- ・戸籍国籍関係の届出

(ii) 予約方法

当館領事班に、Eメールまたは電話でご連絡をお願いします。

【Eメールアドレス】 consul@mt.mofa.go.jp

【電話番号】 514-866-3429

4 領事だより

(1) 日本へ入国・帰国される方々へ

新型コロナウイルス感染症の水際対策により、日本への入国・帰国前から事前の準備が必要です。当館ホームページを随時更新してご案内しています。

【当館ホームページ】

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/coronavirus_jp.html

(2) ノバスコシア州ハリファックス領事出張サービスのご案内

2023年3月7日（火）16時から18時まで、及び8日（水）9時30分から14時まで、ノバスコシア州ハリファックスで領事出張サービスを実施する予定です。ご利用を検討されている方におかれては、以下のURLをクリックして当館ホームページをご覧ください。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/oneday_halifax_20230308.html

(3) 領事サービス向上・改善に向けたアンケートへの協力をお願い

当館は、2023年1月16日（月）から29日（日）まで、領事サービスの向上・改善に

向けたアンケート調査を実施しております。

当館における業務処理状況やマナー（言葉遣い、接客態度）等について、皆様から率直なご意見やご感想をお伺いすることで、領事サービスの一層の向上・改善に役立てたいと考えております。

アンケート調査にご協力いただける方は、以下の URL をクリックして回答入力ページにアクセスしていただけますようお願いいたします。

<https://www.enquete-web.com/MOFA2023/?city=75&code=302D>

（４）改正旅券法令の施行に伴う旅券手続きの変更点概要（３月２７日から）

2023 年 3 月 27 日（月）、改正旅券法令が施行されます。これにより、同日以降の旅券手続きが一部変更されます。概要は下記 URL をクリックして外務省のホームページをご参照ください。

●旅券法令改正及び旅券（パスポート）の電子申請の開始について

https://www.mofa.go.jp/mofaj/ca/pss/page22_003958.html

●令和４年の旅券法令改正による申請手続きの主な変更点

https://www.mofa.go.jp/mofaj/ca/pss/page22_003977.html

（５）在留届の届出内容に変更はありませんか？

【2023 年 4 月 1 日をもって、ファックスによる提出方法は廃止となります】

外国に 3 か月以上滞在する日本人は、お住まいの地域を管轄する在外公館に在留届を提出することが義務づけられています。在外公館は、在留届をもとに、日本人の皆様が不慮の事故や事件、災害に遭遇した際の安否確認、日本国内連絡先への緊急連絡等を行っています。そのためには、在留届の記載内容が常に最新の状態であることが重要です。

●在留届を紙媒体で当館に提出された方：

届出内容に変更が生じた場合は、速やかに当館にご連絡くださるようお願いいたします。

●インターネット上で提出された方：

ご自身でインターネットにて手続きをお願いいたします。

災害や騒乱等が発生した際、ご家族、ご友人、同僚を守るため、一人でも多くの方に安全対策に関する情報が届くよう、在留届（3 か月以上の滞在）の届出、またはたびレジ（3 か月未満の滞在）の登録を、お知り合いの方や出張者・旅行者にご案内いただけますようお願いいたします。

※2023 年 4 月 1 日をもって、ファックスによる提出方法は廃止となります。原則として、インターネット上での提出をお願いいたします。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

(6) モントリオール日本語補習校からのお知らせ

●編入試験実施の案内

モントリオール日本語補習校では、2023 年 2 月 11 日（土）に来年度（2023 年 4 月）から編入希望の新小 3、小 4、小 6 年生、中 1、中 3 年生を対象とした編入試験を実施いたします。

ご希望の方は、2023 年 1 月 27 日（金）までにお申し込みください。

詳細は、補習校ホームページ（<http://mtljpschool.web.fc2.com/>）をご参照ください。

●正教員・補助教員・代講教員募集のお知らせ

現在、モントリオール日本語補習校では、正教員および補助教員を募集しております。

モントリオール日本語補習校は、モントリオール近郊在住の小中学生を対象に主要教科(国語・算数(数学)など)の補習教育を毎週土曜日に日本語で実施しています。本校は、将来日本において教育を受けることを希望する小・中学生が、日本の学校教育に円滑に適應できるよう、日本の学習指導要領に沿った授業を日本語で提供することを目的としています。

以下の条件に合う、熱意のある方のご応募をお待ちしております。

a. 正教員・・・日本での教員の経験、またはそれと同等の能力および経験のある方

【勤務時間】毎週土曜日 6 限授業（年間 40 日）

b. 補助教員・・・小学生の担任教員のアシスタント業務（採点、授業準備等）が行える方

【勤務時間】毎週土曜日 8：15～15：45（年間 40 日）。但し、実際の勤務時間は応相談。

c. 代講教員・・・小学校・中学校の全学年。特定の科目だけでも可能です。担当教員が休みの時に代講をお願いします。

詳細は、補習校ホームページ（<http://mtljpschool.web.fc2.com/>）をご参照ください。

(7) ハリファックス日本語補習授業校からのお知らせ

●ハリファックス日本語補習授業校 2023 年度 4 月からの入学希望生徒募集について
当校では、2023 年度 4 月から入学希望の新入生、他学年の生徒の募集をしております。

ご入学希望の方は、下記のアドレスまでご連絡下さい。

japaninhalifax@gmail.com

(8) モントリオール日本語センターからのお知らせ

モントリオール日本語センターでは新年度（2023 年 4 月開講）の教員を、幼児部 1 名、児童部 1 名募集しております。

土曜日の午前中にセンターで勤務できる方、応募、詳細についてご興味のある方は以下のメールアドレスまでご連絡ください。

info@japanesecenter.com

また、応募の際は履歴書をご送付いただきますようお願いいたします。

(9) モントリオールアカデミー会からのお知らせ

◎モントリオールアカデミー会帰国者講演会

モントリオールアカデミー会は研究と教育に関わる邦人の互助会として 50 年以上活動을続けて参りました。

研究予定年限を終えられて帰国予定の会員の方には、当地でのご研究の内容を紹介して頂いています。

下記日程で講演会をオンラインにて開催します。奮ってご参加下さい。

日時：2/10(金)18:00 から

ご講演予定

演者：本橋仁先生 Canadian Centre for Architecture、文化庁在外研修生
「建築を展示すること」

演者：北原裕己先生 モントリオール大学医学部、博士研究員
「バクテリアの細胞はどのように大きくなるのか？」

ご講演の視聴は下記 zoom リンクから御覧下さい。

<https://umontreal.zoom.us/j/81106874110?pwd=dYt5Q1VCLzIFQWtWUGxyM0pPZExOUT09>

ミーティング ID: 811 0687 4110

パスコード: 312492

5 広報・文化だより

当館では、日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか、知り合いの方についての情報を（culture@mt.mofa.go.jp）までお知らせください。毎月末までに原稿をいただければ翌月のメールマガジンに掲載することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

(1) 当館は、以下の SNS 公式アカウントを開設しています。日本や当館の活動に関する情報を随時発信しています。

●フェイスブック

<https://www.facebook.com/JapanConsMontreal>

●ツイッター

<https://twitter.com/JaponMontreal>

●YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UC5Fc52skP5w8otfowcN30ag>

(2) 日本関連行事等のお知らせ

* 以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含み得ます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問い合わせください。

* 外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様へのご参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんのでご了承ください。

●「JFF+ INDEPENDENT CINEMA」

国際交流基金が、日本各地のミニシアター支配人から推薦を受けた日本映画 12 作品を 2 つの期間に分けて無料ストリーミング配信します。

期間：3 月 15 日（水）まで 6 作品

「二重のまち／交代地のうたを編む」「風の波紋」「ワンダーウォール 劇場版」

「誰かの花」「ほったまらびより」「旅立ちの島唄～十五の春～」

期間：3 月 15 日（水）～6 月 15 日（木）6 作品

「アルプススタンドのはしの方」「戦慄せしめよ」「夜を走る」

「だってしょうがないじゃない」「距ててて」「夢は牛のお医者さん」

視聴方法等、詳細はこちらからご確認ください。

<https://jff.jp/film-lineup/>

●ケベックー日本友好協会 2023 年新年会・冬のカーニバルパレード見学（ケベック市）

事前申込みが必要です。先着 50 名のみ参加可能です。

日時：2 月 11 日（土）

18 時：持ち寄り夕食会開始

19 時 30 分頃：冬のパレード見学（Defile - Grande Allee）

<https://app.carnaval.qc.ca/evenements/defile-grande-allee>

会場：1175 Turnbull, Quebec, QC, G1R 5L5

会費：大人 1 人 1 品持ち寄り+5 ドル、12 歳以下無料

募集人数：先着 50 名

申込み先：ゴーバン雅美氏 quebecjapon2018@gmail.com

詳細はこちらからご確認ください。

<https://fr-fr.facebook.com/associationdamitiequebecJapon/>

●抹茶と和菓子（最中）づくりのワークショップ

日時：2月12日（日）11時30分、14時 於：Miyamoto
2月18日（土）11時30分、14時 於：Sumi Dojo
3月5日（日）11時30分、14時 於：Sumi Dojo
3月26日（日）11時30分、14時 於：Miyamoto

場所：Miyamoto：382 Av. Victoria, Westmount

Sumi Dojo：3479 Boulevard Saint-Laurent, Montreal

<https://www.eventbrite.ca/e/billets-atelier-matcha-diy-wagashi-au-restaurant-sumi-dojo-479547117337?aff=JPN>

●Chant d'une clematite / Song of Clematis de Masako Miyazaki

宮崎雅子氏による写真展が開催中です。（無料）

期間：5月7日（日）まで

場所：Parc Saint-Joseph

9909, 68e Avenue, Montreal

<https://montreal.ca/evenements/chant-dune-clematite-song-clematis-de-masako-miyazaki-28675>

●ランゲージ・エクスチェンジ（仏語－日本語）

ラヴァル大学院生が主催するオンライン・ランゲージ・エクスチェンジが、毎週土曜日朝8時（カナダ東部時間）から開催されています。

<https://www.meetup.com/en-AU/canasian-station/>

問い合わせ先：Pascal Paradis 氏（ pascal.paradis.2@ulaval.ca ）

●国際交流基金トロント日本文化センター

日本語教師向けにワークショップや情報交換会（オンライン）が随時開催されています。

<https://jftor.org/language/teachers/>

E-library で日本の本、マンガや雑誌などを読むことができます。

<https://jf.overdrive.com/>

その他、様々なオンライン・イベントが随時開催されています。詳細はこちらからご確認ください。

<https://jftor.org/>

6 当館管轄 5 州の政治

(1) ケベック (QC) 州

・12月1日、州議会で、英国王への宣誓を済ませずに議場に立ち入ろうとしたケベック党 (PQ) の3議員は、議長の指示により入場を許されず。

・12月1日、ジラル州財務大臣は、今後4年間の政府機関における諸事務手続きの料金・手数料引き上げ上限を3%に制限する法案を提出。

- ・12月8日、齊藤総領事はQC州を公式訪問。本会議中の州議会で紹介される。
- ・12月8日、州移民省によると、州は、2023年は前年と同水準の49500～52500人の永住者を受け入れる予定。うち経済移民は65%、約33000人。
- ・12月9日、州議会は、議員が本会議・委員会に出入りするために必要であった、英国王への宣誓義務を廃止。ロベルジュ州民主機構担当大臣が提出し、全会一致で可決された法案4は、英国王への宣誓を義務付けている1867年の憲法制定法第128条はQC州には適用されない旨明記したもの。今後州議会議員は、州民に忠誠を誓うことのみが義務付けられる。
- ・12月9日、11月にウエストマウント市が受けたサイバー攻撃について、サイバー犯罪集団は、「身代金」の支払期限を当初の12月4日から2週間延長する旨市に対して通告。市は、サイバー攻撃がLockBitランサムウェア集団によるものであったことを認めるも、システムの復旧についてはほとんど情報を公開していない。
- ・12月12日、モントリオールは、ケニアに本部を置く国連機関「国連ハビタット（国際連合人間居住計画、UN-Habitat）」の、「最新の科学技術の進歩を活用した都市の持続的な発展」を支援する新事務所の開設地に選定される。モントリオールで6番目の国連機関。
- ・12月13日、トルドー連邦首相は、州は、仏語を保護しながら国内における政治的影響力を維持するために、主に仏語話者からなる年間11.2万人の移民を受け入れる能力と手段を有していると発言。これに対しフレシェット州移民大臣は、QC州の移民受け入れ基準を決めるのはQC州だけであるとし、不快感を表明。
- ・12月15日、モントリオールで開催された国連生物多様性条約(CBD)第15回締約国会議(COP15)においてルゴー州首相は、早ければ次の州議会で、水資源の使用料値上げを含む水の保護に関する法案を再提出する意向を表明。州政府は、特にこの値上げを財源とする基金「ブルーファンド」を創設し、河岸の清掃や水辺の再生など、水資源保全のためのプロジェクトに充てる。
- ・12月15日、州統計局は、2022年、州内の65歳人口が初めて20歳以下人口を上回ったと発表。1971年には29.9歳であった平均年齢は43歳となった。
- ・12月19日、COP15で「歴史的な」合意：長時間に及ぶ交渉の末、午前3時半頃採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」では、主要目標であった、世界の陸地・内陸水域・海洋の少なくとも30%を保護、途上国の生物多様性保護対策への資金調達（少なくとも2025年までに200億米ドル、2030年までに300億米ドル）についての合意を達成。農薬使用量については「削減数値目標」は削除、プラスチック廃棄物排出については「根絶」からそれに向けた「取り組み」に置き換えられた。
- ・12月21日、フレシェット州移民大臣は、12月28日より、起業移民プログラム（コンポーネント1）および自営移民プログラムについて、仏語話者以外の申請受付を停止すると発表。ただし右枠での申請数には上限を設けない。

(2) ニューファンドランド・ラブラドール(NL)州

・12月7日、ウクライナ難民187人を乗せた4機目の州政府チャーター機が、ワルシャワからセント・ジョンズに到着。

・12月、カナダ先住民会議は、ニューファンドランド島代表ポストの新設を決定。これまでは同島およびNS州を1人の代表が兼任していた。

(3) プリンスエドワードアイランド(PEI)州

・12月15日、11月に党首に就任したキャメロン州自由党党首は、2023年10月に予定されている次回州総選挙で、ビーヴァン＝ベイカー州緑の党党首の選挙区である第17区から出馬すると宣言。自由党は現在、緑の党に次ぐ第2野党。

(4) ノバスコシア(NS)州

・12月7日、州政府は、気候変動対策目標を達成するための新たな計画を発表。新計画は、2030年までに温室効果ガス排出量(GHG)を2005年比で53%削減、2050年までにネットゼロを達成するという、2021年に州議会で可決された法案に基づいたもの。2025年までに新築のビルや住宅への石油暖房器具設置禁止、2035年までに電力のGHGを90%削減等、68のアクションからなる。

(5) ニューブランズウィック(NB)州

・12月2日、モンクトンの商工会議所を始めとする同地域のビジネス団体は、自治体・州・連邦政府に対して治安対策強化を要求。モンクトン地域には550人以上のホームレスがいること、ホームレスの1人がシェルターに入れず屋外トイレで死亡したこと等、最近の調査報告や事件を受け、犯罪・薬物使用取り締まり、シェルターや低価格住宅の収容能力、メンタルヘルス対策支援の強化等を訴える。カナダ統計局によると、2021年、モンクトン都市圏は国内で3番目に犯罪率が高かった。

・12月12日、州政府は、2021年に行われた州公用語法見直し勧告に取り組む「公用語事務局」を設立すると発表。同勧告にそもそも含まれていない「事務局」設立により、州政府は勧告に直接取り組むことを放棄したと、仏語系団体はヒッグス州首相を非難。

・12月15日、州政府は、英語系学校における新たな第二言語としての仏語教育プログラムの詳細を発表。現在60%の小学生が授業の80～90%を仏語で受けている「フレンチイマージョン」に代わり、2023年秋の新学年度から始まる新プログラムでは、英語系学校に通う全ての幼稚園・グレード1生(日本の年長と小学1年生に相当)は、授業の50%を仏語で受ける。グレード6以降は仏語で受ける授業の割合は段階的に減る。今後は州内各地で市民との協議を行いプログラムを仕上げる。なお2023年秋の新グレード2以上は、現行のプログラムをそのまま卒業まで続ける。

・12月21日、アカディア人コミュニティを代表する48人は、ヒッグス州首相兼州進歩保守党党首が州の言語・文化コミュニティ間の不和を招いているとして、同氏のリーダーシップ見直しを求める手紙を州進歩保守党に送付。

【州政党支持率】

・NL 州（ナラティブ・リサーチ (Narrative Research) 調べ（以下同じ）、11 月 3～27 日）：与党自由党 47%、進歩保守党 (PC) 34%、新民主党 (NDP) 16%、緑の党 3%、カナダ人民党 (PPC) 0%、その他 0%

・PEI 州（11 月 3～23 日）：与党 PC49%、緑の党 25%、自由党 20%、NDP4%、その他 3%

・NS 州（11 月 2～28 日）：与党 PC42%、自由党 27%、NDP25%、緑の党 5%、Atlantica1%、その他 1%

・NB 州（11 月 2～27 日）：自由党 39%、与党 PC30%、緑の党 18%、NDP10%、ピープルズ・アライアンス (PA) 2%、PPC 0%

【連邦政党支持率】

・QC 州（レジェ (Leger Marketing) 調べ、12 月 9～11 日）：与党自由党 35%、ブロック・ケベコワ (BQ) 29%、保守党 19%、新民主党 (NDP) 8%、緑の党 4%、その他 5%

7 当館管轄 5 州の経済

(1) QC 州

・12 月 1 日、レテンダ (Letenda、本社ロングイユ、三井物産が出資) は、同社の 30 フィート (9.1m) のゼロエミッション電動バス「エレクトリップ」をエグゾ (exo、モントリオール都市圏（郊外）交通局) 路線で運行する実証実験を行うためエグゾと提携。2024 年実施予定。

・12 月 2 日、州の 11 月の失業率は 3.8%と過去最低を記録。カナダ全体では失業率は 5.1%。

・12 月 8 日、現代経済研究所がケベック投資公社 (IQ) のために行った調査によると、州内の製造業で年間導入されたロボットの数は、2014 年から 2019 年にかけて、オンタリオ (ON) 州、中国、日本等を上回り 275%増加した。

・12 月 9 日、IQ のルブラン CEO は、仏語保護強化のための法案 96 の解釈が原因で、QC 州撤退を検討するところまで至った企業があったと公表。

・12 月 12 日、Critical Elements Lithium 社（本社：モントリオール）は、ジェームズ・ベイのリチウム鉱山プロジェクトに関し州環境省から認可を取得（連邦政府からは認可取得済み）。出資元は州内 30%で、独、ON 州、日本のパートナーもいるとのこと。1 日あたり 4600 トン、17 年間採掘できる見込み。

・12 月 14 日、2022 年の州のメープルシロップ生産量は、前年比 59.1%増の 1590 万ガロンと過去最高を記録。州は国内生産の 90%を占めるメープルシロップの最大の生産地。

・12 月 21 日、州は 2020 年、GHG 削減目標である 1990 年比 20%減を大きく上回る 26.6%減を達成。ただ 2019 年比では 10.5%減であり、この大幅な削減はパンデミックによる経済活動の低下によるところが大きく一時的なものであるとの見方。州は 2030 年の GHG を 1990 年比で 37.5%削減することを目標としている。

・12 月 23 日、フィッツギボン州経済大臣は、メディカゴ（本社ケベックシティ）の主要株主である田辺三菱製薬が、少数株主のフィリップ・モリスが保有していた株式 21%を購入し、メディカゴの株式 100%を取得した旨発言。タバコ大手撤退により、メディカゴは、同社が開発したコロナワクチンを世界保健機関 (WHO) に改めて申請できるように

なる。

(2) NL 州

・12月5日、カルガリーの石油大手サンコーエナジー (Suncor Energy) は、テラ・ノヴァ (Terra Nova) オフショア油田での生産を 2023 年初めに再開すると発表。浮体式生産貯蔵積出設備 (FPSO) が延命工事を終えて 2022 年末までにスペインから戻る予定とのこと。

(3) PEI 州

・12月1日、マイヤーズ州環境大臣は、州の海岸線を保護するための政策が立案され議会に提出されるまでの間、堤防の新規建設を禁止するモラトリウムを発表。即発効となる。

(4) NS 州

・12月13日、州政府は、低中所得層向け家庭暖房のエネルギー効率化プログラムに今後4年間で1.4億加ドルを支出すると発表。4万世帯以上にヒートポンプと電気パネルの設置を無料で提供する。

・12月14日、州政府は、暖房費リベートプログラムに1億ドル以上を追加支出すると発表。一世帯当たりの支給額と受給対象を拡大。

・12月15日、州政府は、ハリファックス病院再開発プロジェクトについて、新たな救急部門、入院病床、がん治療センターの追加を含む大幅な拡張を発表。10月に入札プロセスを中断していた Plenary PCL Health 社と建設契約締結の最終段階にあるとのこと。州政府はその他にも、ダートマス総合病院を含むハリファックス地域の医療拠点の拡張プロジェクト等を発表。費用見通しについては明らかにせず。

(5) NB 州

・12月14日、カナダ原子力安全委員会 (CNSC) は、ポワンスロー原子力発電所（州南部）の電力の一部が失われオフラインになったと発表。同原発を所有する NB パワーによると、負傷や放射能汚染は確認されていない。22日、NB パワーは、原発停電の原因は重水漏れであり、3人の作業員が安全対策と安全規則に従った上で原子炉建屋に立ち入り、手作業で修理を行ったと発表。

[在モントリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから、当館に在留届を提出されている方と、当館メールマガジン読者登録をされている方に向けて送信されています。本メールあてに直接返信なさらないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送信してください。

emagazine@mt.mofa.go.jp

○メールマガジン読者登録をされている方で、配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止（又は登録解除）」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、

emagazine@mt.mofa.go.jp までご連絡ください。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モントリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同ページ内の、「利用者情報の変更／削除」から同様の手続きが行えますので、そちらをご利用ください。

○メールマガジンのバックナンバーは、以下の URL をクリックすると閲覧いただけます。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html

○参考ホームページ

首相官邸ホームページ (www.kantei.go.jp)

外務省ホームページ (www.mofa.go.jp/mofaj/)

在カナダ日本国大使館ホームページ (www.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

当館ホームページ (https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

当館 Facebook (www.facebook.com/JapanConsMontreal)

当館 Twitter : @JaponMontreal <https://twitter.com/JaponMontreal>

○発行：在モントリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333, Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当

(emagazine@mt.mofa.go.jp) までご相談ください。

■-----■